

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成27年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に生活をすることでその人を理解し、個々の能力に合ったケアの実践が出来るよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に広く取られた菜園は整地され、次の植え付けを待つばかりであり、一角にある桜の開花を利用者と職員は心待ちにしている。春の柔かな光を受け、ホールでは利用者がくつろぎ、職員が寄り添い笑顔が絶えない。玄関からは「ただいま」の声と共に、利用者と職員が外出から帰るという自宅での生活さながらの光景がある。また、安心のできる生活を支えているのが医療であり、事業所と医療機関との密な連携のもと、急変時にもかかりつけ医の対応が可能である事が、利用者及び家族等の不安の大幅な軽減に繋がっている。なお、地域の活動に事業所として積極的に参加する事で、地域住民の事業所に対する理解度は高く、協力や支援を受ける場面が随所にある。協力関係を更に強める為にも運営推進会議の充実を図る必要があると考えており、各方面への働きかけを続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ“自由・尊厳・歓び”のある生活を送れるよう管理者及び職員は理念を共有し実践に繋げている。	事業所開設時に代表者と職員で作り上げた理念は、すべての職員にしっかり根づき、目指すべきサービスの方向に迷いはない。管理者と職員はその理念を共有し、振り返りの原点としながら、地域の中での利用者の生活を全力で支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての役割とし、年2回の掃除活動に参加したり、また日常的に近所の人達の交流も日常的に行っている。	近所の人や小学生が訪れたり、散歩や買い物の際に挨拶を交わしたりと、地域の方々と日常的に交流しており、自治会員として回覧板も職員と一緒に隣家に届けている。同一法人が運営する事業所の夏祭りや、近くの福祉施設の催しへの参加も地域との繋がりを深める良い機会である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉系の学校の実習の受け入れを積極的に行い、人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等の報告をしているが、地区長の仕事の状況にて参加して貰えていない。時間日時の設定を検討していく必要がある。	運営推進会議には、利用者・家族・地域住民・行政担当者等の出席があり、利用者の暮らし方や事業所の活動状況等の報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。出席予定者の個々の都合を勘案し日時の設定に苦慮しながらも、開催を着実に増やす取り組みを進めているが、2月に1回の開催には至っていない。	地域交流は日常的に行われているが、運営推進会議は地域の理解と支援を得る為の貴重な機会と位置づけ、事前に地区長と話し合い、代わりの役員の出席を依頼する等の工夫で確実な開催に繋げる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員とは、苑の実情やケアサービスの状況を報告し助言を受けたり情報交換を行い質の向上に努めている。	市の介護保険担当者や生活保護課ケースワーカーとは、運営推進会議や定期の訪問時に、事業所の現況やサービスへの取り組み状況等を積極的に伝え、助言を得る等双方向の協力関係を築いており、市立病院の地域連携室とも日頃から連絡を密に取り合い、サービスの円滑な移行に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は内・外研修に参加しており、身体拘束とはどのような行為であるのか理解が出来ており拘束のしないケアを実践している。	自己及び職員相互の確認に加えて、研修による再確認により、代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、日中の出入りに制限がない事はもちろん、気づきにくい言葉による拘束にも十分に注意を払いながらのケア実践である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修に参加し虐待についての知識を持ち、利用者への対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に制度の対象者がいる。管理者及び職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者は利用者及び利用者の家族より理解及び納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から、意見・要望が言い易い雰囲気作りに努め、また苦情マニュアルを作成し、全ての職員が迅速に対応が出来る体制を整えている。	利用契約を結ぶ際に、意見・要望を表せる事業所内及び外部者の窓口を説明すると共に、管理者や職員は訪問時等の話の中からの引き出しに努めている。運営推進会議は利用者や家族等が外部者に意見・要望を表明できる機会でもあり、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い職員の意見や提案を出す機会を設け運営に反映させている。	職員は会議の場以外にも、随時運営に関する意見・提案を自由に出しており、物品の購入等は管理者から代表者に上申し、決済を受け実現している。利用者の処遇面での意見・提案については、管理者と職員が十分に検討し、決定後は速やかに実行に移している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し資格取得を促し、向上心を持って働くことによりサービスの質の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、内・外研修に参加したり、また自己研鑽し、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流を図り情報交換し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の要望や困っていることに耳を傾け、入所時の不安の軽減に努め、入所後は本人が安心出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の要望や困っていることに耳を傾け、互いの信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と相談し、どのような支援が必要か見極め対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、尊敬の念を持ち、日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共にし支えあう関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、情報を共有し共に本人を支えていく関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの関係を大切にし、関係が途切れず継続していけるよう支援している。	家族等の協力により、外泊や墓参り等に出かけている。また、行きつけの美容院には職員が同伴している。知人の訪問を受けたり、電話での会話を楽しむ場面も多く、併設するデイサービス利用者との交流もあり、馴染みの人や場との関係継続が実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共に生活していく中で自発的な交流が図れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じた助言を行い、これまで築いてきた関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言動や表情を観察し、本人の意向の把握に努めている。困難な場合は職員間の情報を収集し本人の立場に立って検討するよう努めている。	本人のこれまでの暮らしを参考に、今の生活の中で見られる意思の表出から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。情報が乏しく把握が困難な場合には、職員による決めつけや思い込みを排し、本人の視点に立って気づきを共有しながらの取り組みを展開している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報やバックグラウンドシートを活用し、現状にあった暮らしが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の本人の状態を記録し、心身状態・有する力の変化を見逃さないようにし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録にて本人の想いや心身状態が把握する事ができ、本人、家族、必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族等との話し合い、職員間での検討を経て作成した介護計画原案に、往診・通院時等の話し合いで出された、かかりつけ医・看護師等関係者の意見やアイデアを加味した介護計画であり、モニタリングによる評価や状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等を記録に残し職員間で共有し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や変化するニーズに対し柔軟に対応していけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の行事や祭りに参加、また買い物に、出掛けるなど地域との繋がりを大切にし交流を図るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関の受診は継続してもらい、かかりつけ医は2週間に1度往診がある。かかりつけ医とは信頼関係が構築されており、相談・助言・指示が得られている。	本人・家族等によるかかりつけ医の選定であるが、ほぼ全員が近くの内科医をかかりつけ医とし、定期の往診を受けており、緊急時には予定外の往診も可能である。他科受診には、家族又は職員が同行し情報提供を行う等適切な医療を受けながら安心して生活できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の健康チェックを行い、一人ひとりの健康状態を報告し助言を貰っている。また、DR往診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換を行い早期退院に向け安心して治療ができるよう情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族と話し合い、看取りを希望する場合は書面にて説明し随時、方針や方向性について話し合い記録にも残している。	重度化や終末期に対応して事業所ができる事を契約時に説明し、状況の変化に合わせて改めて本人・家族等の意向を確認しながら関係者と方針を共有し、チームで支援している。看取りの事例は現時点ではないが、看取り実施に備えた職員研修も行い体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し掲示するとともに連絡体制が整えられている。職員は救急救命の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、定期的に様々なケースの避難訓練を行い誘導方法及び移動手段を身に付けている。	マニュアルに基づき、定期的に、具体的な場面を想定しての避難訓練を利用者と職員が一緒に行っており、消防の指導も受けている。訓練には近隣の方々の積極的な参加・協力があり、近年の大雨の時にはいちはやい情報で備えができた経緯がある。また、水や食料等の備蓄も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような声掛けを行っている。	馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないよう、事業所全体で日常的な確認と改善を行いながら、目立たずさりげない介護に努めている。又利用者情報の守秘義務について十分理解し、取扱いと管理に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを表出し、自己決定が出来る環境作りを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにならないよう一人ひとりの心身状態やペースを大切に、その人らしく生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようアドバイスを行っている。また、季節に合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ、利用者の力に合わせ準備や片付けを行っている。また、食事中は音楽を流し雰囲気作りを行っている。	メニューを決める際には、決定を容易にする為二者択一等の工夫をし、買い物・下ごしらえ・調理・後片付け等の一連の作業を利用者と職員が一緒に行っており、それぞれの得意分野で力を発揮する利用者の生き生きとした姿が見られる。折々のおやつづくりでの盛り上がりは格別である。又自室での食事を希望する利用者もあり、本人の意思に任せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べ易い形態で食事を提供し、食事量は表にし把握している。また、栄養不足の利用者に対しDRの指示にて、経口栄養剤を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの習慣のない利用者に対し食後の水分の飲用を促し、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの介助を行い、口腔ケアの必要性を理解し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導を行っている。失禁を軽減しトイレで排泄が出来るよう支援している。	リハビリパンツ・パッド等を使用している利用者については、根拠を明確にすると共に常に見直しを念頭に置き、排泄表を目安にさりげない誘導を行いながら、失敗を減らす取り組みを続けている。自立した利用者と共に生活をするという好条件のもと、排泄の自立を目指し、職員の意気は軒昂である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬と平行しながら、水分摂取や腹部マッサージ、野菜を多く献立に取り入れ、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった日時を作らず、随時声掛けを行い、自己決定を促している。入浴中は個別対応にて個々に添った雰囲気作りに努めている。	制限なく利用者はいつでも入浴ができる。基本的に介助による普通浴槽での入浴であるが、必要な場合はデイサービスの機械浴を利用しており、安心して入浴を楽しめるように配慮している。また、季節湯も利用者の楽しみの一つである。入浴を拒み勝ちな利用者については、移動時のタイミングをとらえ声をかける等の工夫により、入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身状態に応じ休息や午睡を取り入れている。また、安眠ができるよう一人ひとりに合わせ居室内の環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況をファイル化し把握している。また、状態観察し病状変化時主治医に報告し指示をもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事を含め張り合いや楽しみのある日々が過ごせるよう努めている。業務優先にならず、一人ひとりに合った支援が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添い出かけられるよう支援に努めているが、外出の機会が減少してきているため、増やしていけるよう努めている。	重度化という現実はあるが、殊更それを理由とせず、本人の希望により又は決定を後押ししながら、少しの時間でも戸外に出かけられるよう支援する事がすべての職員の一致した方針であり、実践に取り組んでいる。又普通は行けないような場所へも、利用者の希望を聞き、年間行事に組み入れて出かけており、家族等が同伴する事も多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ所持している。必要性を見極めながら自由に購入が出来る楽しさを感じてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からいつでも電話が出来るよう支援している。家族からの電話には本人自ら話をしてもらい交流を図れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地良く過ごせるよう不快や混乱を招く刺激を排除するよう努めている。また、音、臭い、光等配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	脱臭・加湿等の装置を有効に使い、五感刺激には全職員が日常的に注意を払いながら、生活の場を整えている。利用者は思い思いに、畳コーナー、ソファ、食卓等でゆったりとくつろぎ、新聞を読んだり、折り込みチラシで物価をチェックしたり、隣接するみかん畑を眺めて秋の収穫を語り合ったりと、生活感や季節感がにじみ出た暮らしぶりである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で利用者が思い思い過ごせる居場所を工夫している。利用者同士の関わりを大切にしながら、居心地良い距離感にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真を置き、本人がこれまでの慣れ親しんだ物に囲まれながら安心して過ごせるようにしている。	利用者の希望により畳敷きにした居室もあり、家族の写真や仏壇、使い慣れた家具等を傍に置き、居心地良く安心して過ごす利用者の姿が見られる。居室は内側からの施錠が可能であるが、使用の有無に拘らず、職員は入室の際には必ずノックや声かけを行う等プライバシーの確保には十分に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は危険の排除に努め利用者の「できること」「わかること」を活かしてできるだけ自立した生活が送れるよう介護が過剰にならぬよう配慮している。		